



## 中国支部・四国支部「お茶会 (No.1)」の報告

四国支部長 松村雅文 (香川大学教育学部)

2001年6月9日(土)14時~17時過ぎ、岡山県の鴨方町中央公民館において、「お茶会 No.1」が開かれました。この会の趣旨は、「天文や天文教育に興味のある人が、気楽に集まり、お茶を飲みながら、議論する場を持つ」というもので、今回が初めての試みです。12名(内4名は非会員)の参加がありました。

まず、松村がそもそも、なぜこのような会を企画し、実行するに至ったのかを説明しました。理由は3つあります：

(1)支部会(「天文教育研究集会」)における議論の時間の少なさ：中国支部・四国支部の具体的な活動として、年2回(内、1回は年会時に行うもの)の支部会を行っています。支部会では、発表に時間の大部分が使われ、あまり議論する時間を持ってない状況があります。

(2)参加しやすくするために、会の回数、開催の場所を多くするという提案：2001年2月の支部会の時に、中国支部・四国支部のあり方についてのアンケートを行いました。その時、土日では、社会教育機関に勤めている場合、なかなか参加できない。回数を増やして、土日に限らず会を行ってはどうかという提案がありました。

(3)天文の話をする機会：大学の研究室等にいるときは、日常的に天文の話や議論ができますが、就職してからはそういう機会がないという声がありました。

この3つのことを考慮し、松村が、岡山天文博物館の栗野さんと相談し、冒頭に書いた趣旨を考えて実現に至りました。

次に、「お茶会」も含め、中国支部・四国支部として、会の持ち方についての議論をしました。天文教育・普及に熱心な方は、会員外にも多いが、会員外から見ると、「支部集会」

や「年会」などの名称の会は、参加しにくい、「お茶会」ならあまり敷居は高くないという意見や、折角集まるのだからテーマを決めた方がいい、むしろ逆にあまり決めないほうが良い、などの意見が出されました。

その後、自己紹介を兼ねて、席順に各人の報告をしてもらいました。それぞれの紹介については、下に記したホームページに掲載しましたので、そちらをご覧ください。

最後に、今回の集まりの反省をしつつ、次回をどうするかについて議論しました。議論の詳細は下記のホームページをご参照ください。今回は、秋頃(9月または10月)、今年の前半(特に夏休み)の企画等が、どのように進んだかを報告する会を持つのが良いだろうということになりました。場所の候補は広島があがり、世話人は松村が担当、また後日、松村から要請し、栗野さんにも担当してもらうことにしました。

参考：やや詳しい報告(中国支部・四国支部メーリングリスト tenkyo\_cs にて報告したもの)が、

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~matsu/matsu/ocha1rpt.txt>にあります。



図. お茶会の様子